

ポイント4 食事の前後に漢字カード

家庭では「漢字を教える」教育が良い

教育は長い期間に亘り、
継続して実践することが
大切です。「石の上にも三

年」という諺がありますが、一旦、漢字教育をやってみようと決心したからには、ぜひとも三年間は継続して実践してほしいと思います。そのためにも、簡単な知識だけで容易に出来る指導方法を紹介します。

例えば、苺の好きな子供だったら、「この字は〇〇ちゃんの大好きな苺という字よ。いちご、いちご」と言って教えます。普通の速さで、少し大きめの声で、口をしっかりと動かし、はっきりとした発音で読みます。

一日三回の食事の前後にやりますから、毎回十秒間かかるとして、一日の学習に要する時間はちょうど一分間です。この時、「これは苺という字よ。カードを見て、いちごと読んでごらんなさい」と言って読ませるのは、一層良いことです。

二日目は、昨日教えた漢字カードを見せて、「これは何という字？読んでごらん」と言います。すると、必ずと言って良いくらい、その漢字を覚えて正しく読みます。

読めたら、「よく読めたわね。では、今日は新しい字を教えましょうね」と言って、次の漢字を第一日と同じ要領で教えます。二日目は、これをやはり朝、昼、夕と六回繰返します。前日の漢字カードを一回目で読めても、必ず六回とも質問して読ませることが必要です。

昨日の漢字カードが読めなかった場合は、初めて教えるような調

コラム

部首 門

両方に開く扉のついた門の象形。“もん”が本義だが、“家”の意味にも。

【開】 かんぬきに手をかけた形の开と門との会意字。“門をひらく”転じて広く“ひらく”こと。

【閉】 門にかんぬきをかけ、そのかんぬきが動かないよう縦木を入れ、さらにその木も動かないようとめた形。“門をとじる”こと。

子で、「この字はね。〇〇ちゃんの大好きな苺という字よ。いちご、いちご」と言って教えれば良いのです。決して、「昨日、六回も教えたのよ」と言って、子供を責めたりすることは禁物です。

こうして、毎日「これ、何ていう字？」と質問するカードが一枚ずつ増えていき、八日目にはこれが七枚になります。その後も、毎日一枚ずつ新しいカードが追加されていきますが、一日六回、一週間質問して読ませたカードはそれで質問するのを打ち切りますから、質問するカードは七枚以上増えることはありません。

新しいカードが毎日一枚追加されますが、同時に一枚ずつ減っていきますので、毎日七枚のカードを質問して読ませ、新しく一枚の漢字を教える、というわけです。

こうして、三年間続けて実践しますと、一千字の漢字が覚えて読めるようになり、中学生向けの本でも読めるようになります。そうなれば必ず読書好きの子供になりますので、漢字力は益々伸びていきます。こうなったらもうしめたものです。

コラム

部首 舟

舟の形を象った象形字。

【船】 沿の意味の 𠂔 (えん) と舟の会意形声字。“流れに沿って下る舟”のこと。